

雑 報

中京大学大学院法学研究科
昭和57年度修士論文題名一覧

- 小野 恵 株式会社の本質について
——わが国の学説を中心として——
- 鬼頭 茂夫 面接交渉権について
- 久徳直矢 監査役の権限
- 鈴木 章夫 虚偽の嫡出子出生届
- 根村 明美 租税犯の本質についての一考察
- 深谷 隆雄 粉飾決算における取締役等の責任
- 守永 典史 新株発行の無効原因について
- 山中 邦夫 租税犯処罰の法理について

中京大学法学部昭和57年度卒業論文題名一覧

家崎ゼミナール（民法）

- 半田 富貴子 有責配偶者からの離婚請求
八太 崇 民法976条について
林 正裕 公正証書遺言について
池田 泰造 認知請求権の放棄
池原 秀幸 民法770条について
井上 恵子 現代法における親子関係
岩本 憲幸 有責配偶者の離婚請求
城 要行 財産の処分行為と法定単純承認
川野 太 結納の法的性質
小松 浩和 有責配偶者からの離婚請求
小西 正起 離婚原因
小谷 正人 離婚原因に対する一考察
中村 浩三 自筆証書遺言の方式について
法月 隆弘 夫婦関係に対する不法行為
小栗 良則 慶謝料請求権の相続性
奥野 治之 離婚原因について
瀬川 久夫 扶養制度の在り方
水落 裕之 遺言の性質とその趣旨の解釈
鈴木 信資 判例にみる財産分与の在り方
山本 美津子 離婚破綻の原因の認定について
柳瀬 孝優 慶謝料請求権の相続性
安井 敏樹 離婚財産分与の法的効果

石川ゼミナール（日本法制史）

船越 清 倉吉市制実施への道

- 畠山千春 日本ファシズム
橋本正子 戦後における学生運動の実態
池上佳彦 ポツダム宣言後の社会政策
伊東正恵 日本の南進政策決定の背景

—第二次大戦における日本の東南アジア侵攻決定の背景—

- 勝谷俊文 大東亜共栄圏の功罪
小坂宜弘 徳島海軍航空隊と松茂
向井文雄 不平等条約下の日本
森谷泰昌 近代の天皇制と国民主権
中村 実 戦争という悲劇
尾崎正知 聖徳太子の憲法
坂本真次 和歌山県の歩み
白木政敏 明治憲法と伊藤博文
須藤邦広 戦後の農地改革
鈴木宏 マッカーサーと憲法改正
高岸優 和歌山県の町村合併
高橋勝彦 太平洋戦争と無条件降伏
田中辰己 満州事変までの過程
梅本泰通 満州事変の歩み
山本浩正 治安維持法
四宮岳史 戦争に関する一考察

石堂ゼミナール（刑法）

- 天野浩志 凶悪殺人の実証的研究
有村浩昭 放火罪に関する一考察
芦田一三 猥褻の概念
福井淑文 自動車事故と刑事責任
井原良盛 薬品公害と刑事責任
伊藤達也 死刑制度の存廃について

- 金 村 利 行 自動車事故と刑事責任
木 村 恵 子 報道の自由と公正な裁判
小 出 康 雄 死刑制度の存廃について
窪 田 圭 一 少年非行と保護観察
倉 田 和 美 犯罪と家庭との関連性
松 浦 明 裕 現代治安法制の検討
森 本 恭 司 精神障害と保安処分
内 藤 彰 夫 少年非行予測理論について
中 瀬 正 也 共謀共同正犯論について
西 村 康 治 刑罰と保安処分
佐 藤 明 自動車事故と刑事責任
関 良 三 死刑制度存廃についての一考察
高 島 和 彦 わいせつの概念について
山 田 次 郎 「わいせつ」の概念について
山 田 剛 因果関係に関する一考察
山 本 素 廣 結果的加重犯に関する一考察
湯 浅 靖 広 刑法と倫理

市原ゼミナール（商法）

- 赤 井 正 美 手形偽造者の手形上の責任
早 野 友 浩 会社荒し等に関する贈収賄罪
日 野 浩 二 会社の政治献金について
小 柴 均 司 商号専用権について
宮 地 真 一 手形の善意取得
村 永 武 彦 手形の裏書の効力について
森 安 伸 手形の偽造と変造について
中 島 孝 仁 手形の善意取得について
新 宅 晓 名板貸人の責任について
鈴 木 俊 弘 商号専用権について

高 橋 英 幸	訪問販売における契約について
高 橋 一 裕	手形の偽造について
高 森 由 樹	手形と人的抗弁について
玉 田 純 司	手形の偽造と表見代理について
矢 田 晃	商号専用権について
米 山 浩 信	手形上の権利の消滅時効
山 下 真 二	手形の偽造と表見代理
畠 鮎 人	手形偽造者の手形上の責任
西 村 志 郎	株主総会決議の瑕疵
寺 角 寛 之	手形偽造と表見代理

伊藤ゼミナール（商法）

阿 部 博 行	会社の能力
福 澤 雅 仁	取締役会社間の取引
平 崎 浩二郎	日本会社法史
井 上 保	預合と見せ金
井 上 佳 樹	議決権行使の代理人資格の制限
伊 藤 春 美	引当金と繰延資産
各 務 祐 二	商号
片 川 修	取締役の第三者に対する責任
小 室 博 文	会社の政治献金
前 田 彦	表見支配人
丸 山 和 彦	独占禁止法の変遷
森 脇 章 博	公正取引委員会論
中 江 康 智	名板貸
中 井 康 雄	決議取消の訴と取消事由の追加
西 尾 智	株券発行前の株式譲渡
田 中 幸 延	株式の名義書換
渡 辺 浩 二	会社法人格否認の法理

横田増也 取締役の報酬

大石ゼミナール（政治思想史）

- 江口栄二 核問題と日本
藤村明彦 丸山ワクチンのガン療法と批判
長谷川浩一 高齢化社会と年金制度
橋口秀巳 大東市の発展
平木秀之 エネルギー問題の考察
磯崎智弘 ポーランド戒厳令をめぐって
川田陽一郎 憲法第九条と日本の防衛問題
鯉江雅彦 核と平和
小坂清俊 大阪空港訴訟の十二年間
黒川寿 國際障害者年にみる福祉
松下啓文 校内暴力について
三前剛 南部町の行政
村尾啓一 豊川市の歴史と未来
長町昌浩 イギリスの弁護士について
西本忠司 ポーランド「連帯」の歩み
荻原由英 オリンピックと政治
坂田健誌 日本の防衛について
田中一 行 大阪空港公害訴訟について

岸上ゼミナール（民法）

- 阿萬章司 不法行為における損害額の算定
洞内千浩 女子の事故死と財産上の損害
小林正人 錯誤と瑕疵担保責任について
近藤正彦 賠償すべき損害の範囲
緑有朗 保証人の責任の範囲

- 三木 康典 銀行預金等の払戻について
中島 浩昭 不法行為における損害賠償の範囲
夏目 実 海面下土地所有権論
能登 恭彦 損害賠償額算定の基準時
小笠原 卓郎 不法行為債権相互の相殺について
佐藤 克志 債権譲渡における無過失要件
佐藤 直史 契約の解除による原状回復義務
澤 謙司 貸貸借の解除について
清水 登 売主の瑕疵担保責任と不完全履行
鈴木 竜彦 指名債権の二重譲渡の優劣の基準
田上 健司 建物保護法による借地権の対抗力
鶴田 二郎 売主の瑕疵担保責任と不完全履行
内田 明徳 不法行為における損害賠償の範囲
渡辺 孝彰 借地権の対抗力と権利濫用
山口 真次 損害賠償額算定の基準時について

小林ゼミナール（民法）

- 浜田 良昭 無償同乗者による損害賠償請求
星野 信一 航空機騒音における差止請求
井上 雅安 交通事故と幼児
石田 勝巳 失火責任法
石原 杉男 不法行為における相当因果関係
磯部 元信 近親者による損害賠償請求
神山 聰雅 自賠法と使用者責任
鬼頭 為光 キャンプにおける不法行為責任
小林 明 不法原因給付について
楳 敏晴 自動車事故における民事責任
松本 真一 主婦の逸失利益について
中野 博史 失火責任についての一考察

- 中島 薫 医療事故
中山 浩貴 損害賠償請求論の課題
成田 佳生 損害賠償額の算定について
奥田 浩実 近親者間事故と自賠法
小野 君明 近親者の損害賠償請求権について
積 次男 交通事故における過失相殺の基準
大山 佳和 水俣病裁判—私の公害論
奥本 宏志 医薬品の製造物責任

榎原ゼミナール（民事訴訟法）

- 藤本 吉則 調停制度の役割について
濱崎 主司 慶謝料請求権の相続性について
林 正美 自動車事故の示談と損害賠償
日向 勝弘 我が青春の合気道
市村 博央 クロロキン薬害訴訟と損害論
伊藤 忠幸 伝統的結婚制度と現代結婚
伊藤 好雄 交通事故被害者と救済システム
梶原 生也 離婚原因論
川端 康弘 交通事故訴訟における過失相殺
松岡 秀人 大阪国際空港事件
中川 浩司 現代離婚とその背景を考える
済木 伸二 損害賠償に関する裁判上の問題
成長 浩昭 教育実習を通じて感じたこと
妹尾 宏人 二重起訴禁止原則の再構成
小路 義之 旅について
田口 渉 裁判離婚その離婚原因の諸問題
田井 正宏 訴訟上の請求
山下 隆司 離婚原因と破綻主義について
柳川 俊昌 訴訟事件と非訟事件

杉 本 博 孝 民事調停制度

佐保ゼミナール（比較法）

- 長谷川 文 彦 島の彼方に曙光が見える
飯 塚 学 遠くて近い国・ソ連の人々
池 田 誠 司 ソビエト学校制度の構造と特色
神 谷 康 浩 生存権の比較法的検討
川 西 孝 明 ソビエトにおける報道の自由
木 本 浩 一 憲法九条と日本の軍備
紺 野 和 之 日本人のソ連観
楠 間 浩 貴 日本の防衛
真 次 聰 日本の公告とその対策
三 上 智 英 ソビエトの環境保護
大 西 弘 二 教育をうける権利とソ連の教育
坂 本 喜 弘 日本とソ連の婚姻の比較と考察
三 戸 啓 志 日・ソ離婚制度の概要と現状
高 橋 正 樹 基本的人権をめぐる諸問題
高 橋 俊 朗 ソビエトの学校教育
竹 川 広 幸 少年非行
伊 澤 俊 夫 北方領土
城 間 剛 基本的人権と公共の福祉

杉江ゼミナール（国際政治）

- 古 川 好 翠 第二次世界大戦以降の中東紛争
井野口 哲 也 極東軍事情勢とシーレーン
井 上 貴 至 パレスチナ問題
石 川 達 也 防衛問題と軍縮
川 原 英 二 ソ連とその外交諸関係

- 小林由忠 核と平和
小池泰典 南北問題を考える
近藤浩之 現代国際政治の危機の構造と転換
前川博之 ソ連と米国の世界戦略
森義朗 中立国の国際的地位
森本重徳 戦後における世界の平和運動
長神友昭 核時代における戦争と平和
佐久間洋文 日本の平和—永世中立をめぐって—
友利勝良 戦後世界政治の展開と非同盟
山川修司 核実験と軍縮
山中真二 米ソ軍事バランスと欧州核軍縮
山内明浩 「連帯」運動とポーランド
山根裕之 「日米安保体制論」
橋本憲市郎 「国際連合」について
島田賢治 軍縮及び平和構築への考察

中本ゼミナール（刑事法）

- 藤田道士 少年非行
長谷川陽一 企業秘密の保護
林浩志 産業スパイと刑事责任
五十川洋司 校内暴力とその対策
川満智昭 精神異常と責任能力
河村修一 犯罪被害者補償制度について
久野誠 収賄罪
隈部真由美 覚せい剤犯罪
倉本政和 死刑
桑森浩明 結果的加重犯と因果関係
水野数広 収賄罪
中沢孝仁 死刑

西上 稔 安楽死
西川 昇 少年非行
長田 浩一 安楽死
酒井 正英 非行少年の人間像
上田 博嗣 再審について

庭山ゼミナール（刑事訴訟法）

安藤 泰 別件逮捕と免罪
遠藤 隆二 死刑存廃論
藤木 重男 松川事件考
福田 博美 自白に関する一考察
福田 泰浩 免罪と陪審
長谷川 正幸 改正刑法草案論
石原 敏幸 下山・三鷹・松川三事件
笠村 容成 安楽死考
木村 健一 犯罪被害者補償制度
小林 育 自白論
小島 充穎 被疑者・被告人の人権
小山 一憲 保安処分に関する一考察
倉田 亮 違法収集証拠
中根 栄一 覚せい剤乱用と犯罪
丹羽 智徳 檢察審査会の現状と課題
大脇 浩徳 保安処分制度論
高田 和典 免罪事件と別件逮捕
都築 英正 死刑制度論
富永 均 免罪と拷問捜査
鳥飼 源浩 死刑についての一考察
吉村 雅哉 実体的真実主義のあり方
羽山 吉弘 期待可能性の理論

吉田和宏 保安処分論

橋詰ゼミナール（労働法）

- 浅井省吾 時季指定変更をめぐる諸問題
袋井肇 生理休暇
本田敏文 労働災害と職業病裁判の争点
堀内貴志 爭議行為の正当性判断の基準
飯田秀一 ストライキと賃金カットの範囲
川本康博 雇用関係における男女差別の問題
北澤拓 除名とユニオンショップの効力
小林清二 支配介入
近藤博之 配転・出向
近藤祐二 高令化社会と労使関係
前田正裕 労働者の誠実義務
水谷治之 企業外非行
中川圭一 研究会報告と生理休暇について
中野正吉 リボン闘争と判例理論の変遷
大村明彦 有給休暇闘争と年休の成否
大澤泰一 派遣労働者の必要性とその保護
新名和将 パートタイマーの組織化
砂川恵良 派遣社員の実態と法理
高実康裕 使用者の言論と不当労働行為
吉田恭三 就業規則の不利益変更の効力
能沢実 就業規則の法的性質

檜山ゼミナール（政治史）

- 浅野主税 三・一運動の一考察
藤井幹雄 北清事変における日本の出兵外交

後 藤 宗 平	原敬政友会総裁についての一考察 —『原敬日記』の分析を中心に—
濱 口 佳 裕	旅順要塞総攻撃と乃木希典
岩 佐 久	二・一ゼネストについて
小 池 徹	極東における安全保障体制
国 分 篤	「有責配偶者の離婚請求」について
村 山 照 彦	冤罪事件からみた捜査と人権
野 田 雅 佳	日本の第一次大戦への参戦外交—『外交文書』を中心として—
岡 本 浩 幸	死刑制度の是非についての研究
斎 藤 義 明	少年非行の実態とその対策
田 澤 寛	日清戦争と三国干渉
戸 谷 博 昭	条約改正と対外硬派
上 野 伸 幸	ヒットラーの研究
上 原 春 雄	外政機構の形成について

増原ゼミナール（民法）

馬 場 善志雄	使用者責任と求償権
深 津 利 夫	認知について
福 山 妙 志	サラ金地獄脱出への道
花 山 昭 人	使用者責任と運行供用者責任
木 村 幸 弘	離婚原因の研究
窪 西 賢 一	裁判離婚と破綻主義
倉 石 浩 行	水俣病にみる日本の公害
黒 田 浩 司	親子関係
宮 下 厚	離婚財産分与と慰藉料との関係
中 鳥 信 一	離婚における財産分与と慰藉料
岡 本 康 之	法の基本的考察と歴史的課題
大 橋 峰 子	結納の法的性質
大 西 隆 仁	財産分与と慰藉料

- 樂 得 晴 茂 推定されない嫡出子を巡る問題
坂 本 美登利 実子特例法について
竹 部 充 知 夫婦財産制
武 島 宏 不真正連帶債務
遠 山 幸 恵 内縁について
山 平 覚 交通事故における示談交渉
山 本 真 実 虚偽の嫡出子出生届と養子縁組
山 岡 恭 三 遺留分減殺請求権の諸問題
山 尾 優 二 認知について

松浦ゼミナール (法哲学)

- 渕 矢 滋 人 モンテスキュー—歴史と精神—
浜 崎 好 修 核と世界平和
日 沖 隆 浩 環境権と新幹線訴訟
清瀬 亮 輔 報道と被疑者の人権
前 島 千 明 法と正義
松 島 武 安楽死とその条件
三 村 雅 英 現代の青少年非行問題
光 枝 裕 治 日本人の法意識
宮 前 浩 義 「障害児（者）教育」について
村 上 和 彦 刑罰と保安処分との二元主義
森 脇 和 成 軍縮、その現実
内 藤 信 夫 私的録音における著作権法問題
野 田 益 穂 現代青少年非行について
岡 田 浩 『法の精神』の成立と思想
大 野 雅 文 職務質問とそれに伴う所持品検査
大 塚 功 因果関係の分析
阪 本 研 一 戦後の軍縮問題と現在の状況
佐々木 重 行 死刑についての一考察

- 鈴木 健二 会社法における社員の責任
笠井 聰 保安処分法制化の批判的考察

松本ゼミナール（憲法）

- 荒木 輝 表現の自由とプライバシー
浅井 俊一 個人及び国民と日本国憲法九条
花岡 淳司 戦力と自衛隊
早川 英起 私立大学在学関係と人権保障
井川 善行 憲法九条と自衛隊
石田 政夫 法の下の平等について
磯野 啓二 大阪空港訴訟をめぐる環境訴訟
藤山 哲 法の下における平等と尊属殺重罰
加藤 直人 言論・出版の自由と猥亵性
北島 哲也 憲法九条と自衛隊のあり方
小林 純一 私立大学における基本的人権
胡中 雅之 憲法解釈と安全保障
櫛引 正樹 靖国問題と憲法について
麦島 晃 憲法第九条の解釈
村上 鉄郎 憲法九条と自衛隊
中倉 勇二 奥野発言を巡る改憲問題について
西尾 友希 憲法九条と防衛の諸問題
越智 邦夫 憲法第九条の現代的意義と自衛隊
岡本 豊 日本国憲法と自衛隊存在の意義
高橋 晓 公害についての一考察
高橋 宗 公衆浴場と適正配置規制
田中 信之 税關検閲と性表現の自由
山田 哲也 非戦・平和主義実現への道
山崎 宏幸 日本の防衛と憲法
吉岡 洋明 公務員の労働基本権の展望

丸山ゼミナール（政治学原論）

- 藤原茂生 吉田茂論—経歴とその政治—
肥後正之 勝海舟
飯田正寿 若き日のヒトラー
石川彰 高齢化社会と老人問題
木元久 戦争放棄と自衛
小池弥 国防について
黒田義徳 幕末の政治家『坂本龍馬』
松田和也 郷土三重県の警察史
森本等司 アドルフ・ヒトラー
鍋田邦彦 自由民主党の現状分析
中垣卓己 憲法九条の危機
横地直行 憲法九条と自衛隊
横田誠宏 中曾根康弘
松浦淳 戦前日本の社会主義思想
近藤文夫 連合赤軍彼達の思想

樅木ゼミナール（国際法）

- 安部秀武 ソ連軍侵攻における日本防衛
藤本享司 國際連合憲章における自衛権
萩原盛人 海洋における学説の発達
伊藤隆久 國際法上の自衛権
河西正 ソ連の南下政策について
小林晃雄 空域主権と国際航空の自由
松元義浩 民間航空の安全に対する不法行為
三上信幸 宇宙条約の成立過程について
中井義喜 北方領土問題の起因
中本和彦 領海制度の成立過程について

- | | |
|---------|-----------------|
| 野 口 正 春 | 私見フォークランド紛争 |
| 岡 森 栄 作 | 幕末における外圧の実態 |
| 尾 崎 雅 明 | 米ソの核軍拡とわが国の安全保障 |
| 高 塚 富 雄 | 日本の安全保障と永世中立 |
| 玉 井 洋 一 | 国家主権と国際法 |
| 田 中 政 弘 | 日本の安全保障 |
| 山 根 達 司 | 無国籍の発生とその保護 |
| 吉 本 清 孝 | 国際刑法と犯罪取り締り |
| 岡 田 隆 之 | 国際法の性質と問題 |
| 鬼 田 観 治 | 現行及び宇宙空間の自衛権 |